

献呈の辞

2023年（令和5年）3月末日をもって、心理学科の吉田弘道教授が定年をお迎えになり、ご退職なさいます。吉田先生のご略歴や専修大学でのお仕事ぶりについては、下斗米人間科学部長が書かれていますので、私は別の話を書こうと思います。

私は同じ学科に所属しているとはいえ、学科会議などでご一緒する以外には委員会や研究会などの場で吉田先生とご一緒する機会にはあまり恵まれませんでした。なので、印象に残っている吉田先生の姿の多くは、職員バスでたまたま同じ席に座った時など、仕事を少し離れた場所ばかりでした。学科の仕事について、あるいは心理学の研究活動について話すというよりも、日常の他愛無い出来事について話すことがほとんどだったと思います。

ちょうど僕に子どもができた頃、吉田先生と職員バスでご一緒することがありました。子どもがなかなか寝てくれない、でも猛烈にかわいい、といった愚痴とも惚気（これは惚気でしょうか）ともつかない雑談をしたことを覚えています。吉田先生は、それはもう楽しそうに、赤ちゃんは可愛い、子どもはいい、僕は赤ちゃんが大好きで、ずっと一緒に遊んでもらってきたんです、という話をされました。吉田先生のご専門は発達臨床心理学で、まさに赤ちゃんや子どもを研究対象とする分野です。話を聞きながら、「人生の楽しみ合い間に研究活動があるって最高だよな」と思ったことを覚えています。お会いするとわかりますが、吉田先生は恵まれた体格のうえにアメリカの国務大臣を務めたコリン・パウエルにそっくりの方です。その吉田先生が、赤ちゃんの話をするときには、本当に楽しそうな、嬉しそうな、心とろかすような笑顔をされるのです。つたない表現で恐縮ですが、「うわっかわいい」と思いました。

もちろん、大学での仕事や研究・教育、学外での活動や業績を拝見するに、楽しいことばかりではなかったとは思いますが、それでもなお、あの笑顔は、「なんかいい感じがするぞ」という感覚を周りに与えるものでした。できればまた、気難しい年頃になった子どもの相談をさせてもらえればと思うのですが、いかがでしょうか。職員バスでお会いすることはないかもしれませんが、退職されても「なんかいい感じ」が失われることはないと思います。

大学での活動と、そして職員バスでの笑顔に深い感謝を込めて、私からの献呈の辞とさせていただきます。

令和5年3月

専修大学人間科学部心理学科長 澤 幸 祐